



# ITU-T TSAG会合報告

総務省 国際戦略局 通信規格課

## 1. はじめに

2022年12月12日～16日まで、国際電気通信連合電気通信標準化部門 (ITU-T) の電気通信標準化諮問委員会 (Telecommunication Standardization Advisory Group: TSAG) がスイス・ジュネーブ (オンラインとのハイブリッド形式) で開催された。

今回のTSAG会合は、2022年3月に世界電気通信標準化総会 (WTSA-20) が開催されて以降初の会合である。47の加盟国、電気通信事業者等から計276名 (うち113名がオンライン参加) が参加し、我が国からは、主管庁である総務省とともに、日立製作所、KDDI、富士通、NEC、NTT、NTTドコモ、NICT、OKI、日本ITU協会から計22名が参加した。

## 2. 主な結果

### 2.1 今会期 (2022-2024年) のTSAG組織体制

今会期のTSAG組織体制に関するTSAG議長のAl Hassan氏 (サウジアラビア) 提案についてPL (Plenary Session) で議論が行われた。本提案では、RG (Rapporteur Group) を整理し、RGの上に新たにWP (Working Party) を設置することが盛り込まれており、これに対し、ロシアが前会期の体制維持を主張する一方でドイツ、カナダ、韓国が支持を表明した。オフラインで調整が行われた結果、本提案を微修正した後に図のとおり承認された。なお、日本からは永沼美保氏 (NEC) がRG-WPR (Work Programme and

Restructuring, SG work, SG Coordination) のRapporteurを務めるほか、三宅滋氏 (日立製作所) がISO/IEC JTC1とのリエゾンオフィサーを務める。

### 2.2 メタバースに関するFG (Focus Group) の設置

メタバースに関するFGの設置に向け、FGのToR、親グループ、役職についてPL及びアドホックグループで議論が行われた。会合には、コレスポネンシグループ (CG-MV) を設置し、メタバースに関する検討を行ってきたSG16よりリエゾン文書が入力されたほか、韓国、日本のセクターメンバー、カナダ、英国、ロシア、SG5、SG13、SG17からも文書が提出された。

議論の結果、FGのグループ名はFG-MV (Focus Group on metaverse) とすることで合意するとともに、FGのToRには、2024年1月までに検討を行い、成果物を直近のTSAG会合に提出すること、メタバースに関する検討を行っている他のグループと作業が重複しないこと等が盛り込まれた。また、メタバースが複数のSGに関連する幅広い領域を扱うことからFGの親グループをTSAGとして設置することが合意されるとともに、FG-MVの役職については、議長はShin-Gak kan氏 (韓国、ETRI)、副議長にはノキア、エリクソン、NICT (今中秀郎氏)、ブラジル、英国、中国からそれぞれ1名ずつ選出された。

その他、サウジアラビアからは、2023年の第一四半期にFG-MVの第一回会合のホストをしたい旨の申し出があった。

### 2.3 2つのJCA (Joint Coordination Activity) の設置

量子鍵配送ネットワークに関する検討を行うため、中国の北京郵電大学などからJCA-QKDN (Joint Coordination Activity on Quantum Key Distribution Network) を設置する提案がなされ、議論の結果、設置が合意された。議長には中国 (CAICT)、副議長には中国、英国からそれぞれ1名ずつ選出された。

また、SG13からTSAGに対して機械学習に関する検討を行うJCA-ML (Joint Coordination Activity on Machine-Learning) を設置する要請がなされ、議論の結果、SG13を親SGとして本JCAを設置することが合意された。

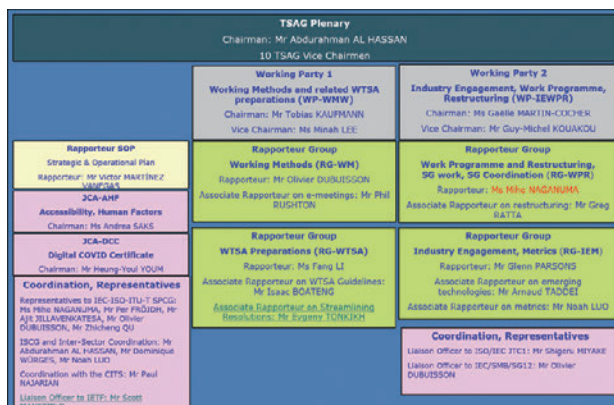


図. 今会期 (2022-2024年) のTSAG組織体制図

## 2.4 その他の各RGにおける主な結果

### 2.4.1 作業方法ラポータグループ (RG-WM ; Working Methods)

ITU-Tにおける様々な作業手順やルールを規定するAシリーズ勧告の管理のほか、電子会議におけるマネジメント方法などについて議論する役割を持ち、Olivier DUBUISSON氏 (フランス) がラポータを務める。

今回合会では、Aシリーズ勧告のSupplement 4 (リモート参加に関するガイドライン) について韓国から改訂案が提案され、リモート会議における用語の統一など各参加者のコメントを反映し、改訂に合意した。また、Aシリーズ勧告のSupplement 2 (相互接続試験) についてイタリアテレコム等から改訂案が提出され、編集セッションで調整を行った結果、改訂することが合意された。

### 2.4.2 WTSA準備ラポータグループ (RG-WTSA ; WTSA Preparations)

WTSA-24に向けて、各地域から提案されるWTSA決議提案のレビューや、内容に重複がある決議の合理化、WTSAにおける決議の扱い方に関するガイドラインの作成などの役割を持ち、Fang Li氏 (中国) がラポータを務める。

今回合会では、カナダから、WTSAの効率的な作業運営を行うためWTSA議長に「ワンページャー」の作成を求める提案がなされ議論が行われた。米国、ドイツなどが本提案に支持を表明する一方で、ITU-Tだけでなく他の部門とも作業方法を統一すべきなどの慎重な意見もあり、今後の合会で継続審議することとなった。

また、ロシアからはPP決議とWTSA決議の合理化に関する提案があり、本RGにおいて、1) 重複を避けるため、同じテーマに関する複数の決議をどのように合理化するかについての指針、2) 前文を簡潔にするなどの「決議の起草方法」についての指針、3) WTSA-24に備えた決議合理化の候補となるWTSA決議の特定、の3点について扱うべきである旨提案があった。一方で、このような課題はPPが取り組まなければ上手くないのではないかと懸念を示す声もあり、今後の合会で継続審議されることとなった。

### 2.4.3 作業項目、再編、SG作業・調整ラポータグループ (RG-WPR ; Work Programme and Restructuring, SG work, SG Coordination)

すべてのSGの活動報告を検証し、SGが提案する課題構成の変更案をエンドースするとともに、次会期のSG構成の見直し案を検討する役割を持ち、永沼氏 (NEC) がラポータを務める。

今回合会では、前会期で検討したSG再編のアクションプラン実施に向けた今後の進め方 (2023年6月までに各SGより評価データを収集、2024年6月のTSAG会合までにSG再編案を策定) について議論された。各国から、再編の意義やSG活動の評価指標等について多数意見が出されたものの、今後の進め方については承認され、今後の合会で継続審議されることとなった。

### 2.4.4 産業界の関与の強化・評価指標ラポータグループ (RG-IEM ; Industry Engagement, Metrics)

産業界からのITUへの参加を得るための計画や、新興技術に関する作業の検討と調整を行う役割を持ち、Glenn Parsons氏 (カナダ、エリクソン) がラポータを務める。

今回合会では、中国からの、メンバーの参加を促す既存の決議やその他の活動のリストを各部門に回章する中国提案に対して、各国から非ITU-Tメンバーへの働き掛けも別途必要であり、既にITU-Tメンバーである団体とメンバーでない団体へはそれぞれ別の戦略を策定しなくてはならない旨のコメントがあり、今後の合会で継続審議されることとなった。

また、産業界の関与の評価指標として、TSB事務局から、勧告のダウンロード数や各SGの活動状況などを集計した資料が紹介された。今後の報告書の取りまとめにあたっては、各課題別の出席者数を含めることを検討することが提案された。

## 3. 今後の予定

次回TSAG会合は、2023年5月30日～6月2日の4日間の日程で、ジュネーブにおいて開催される予定である。